



## SoftBank Technology

VMware Viewで仮想デスクトップ環境を構築  
vShield Endpointによるエージェントレスのセキュリティ対策も併用し  
盤石のサービス提供体制、安定した業務環境を実現

### 課題

- ・災害時、出社困難な際にも運用管理サービスを継続できる体制の確立
- ・管理が難しいPCのセキュリティポリシーの統一
- ・PC導入時に各社員が行うセットアップ作業の工数削減

### ソリューション

BCP、顧客システムの運用管理体制の強化などを目的に、VMware Viewによって社内デスクトップ環境を仮想化

### 導入効果

- ・どこでも顧客システムの運用管理が可能な環境を構築
- ・デスクトップ環境を一元管理し、セキュリティポリシー統一、設定作業工数を削減
- ・社外からも業務が可能になり、社員の業務生産性が向上

### 導入環境

- ・VMware View 5.1
- ・VMware vShield Endpoint

クラウドサービスなど多様なICTサービス事業を展開するソフトバンク・テクノロジー。顧客システムの運用管理も担う同社は、いつでも、どこからでもシステムにアクセスできる環境を整備するため、VMware Viewによる仮想デスクトップ環境を構築しました。万一の災害時、社員が出社できずともシステムを運用できるようにするなど、顧客により安心してサービスを利用してもらえる環境を実現。また、仮想デスクトップ環境は、営業部門の生産性向上にも貢献するなど、さまざまな成果を上げています。

### 有事の際も、どこからでも業務を継続できる仕組みの構築が急務に

ソフトバンクグループの一員としてICTサービス事業を展開するソフトバンク・テクノロジー。現在、同社はクラウド関連サービスに注力しており、クラウドへのアクセス環境の整備から、クラウド基盤、クラウドサービスの構築、さらには24時間365日の運用管理サービスを提供しています。

「大切なお客様のシステムを運用管理する以上、いついかなるときもお客様のビジネスに必要なサービスを止めないことが至上命題となります」と同社の鈴木 重雄氏は話します。そのため、同社は耐災害性に優れたデータセンターを建設。サーバ仮想化を活用して、顧客システムはもちろん、サービスの継続に欠かせない自社のシステムまで、さまざまなシステムをそこに集約してきました。

しかし、2011年の東日本大震災において、同社は思わぬ事態に直面しました。交通網が遮断され、運用管理担当者が思うように出社できなかったのです。「セキュリティの観点から、各種システムへのアクセスは社内限定していたため、担当者が出社できなければ、何も行えません。サービス停止こそ免れましたが、システムの運用管理に関する新たなリスクが顕在化したのです」と鈴木氏は振り返ります。

こうした問題を解決するため、同社は、社内外を問わず、セキュアにシステムにアクセスできる方法を模索。いくつかの方法を検討した末、同社は、仮想デスクトップ環境の構築を決定し、その基盤として「VMware View」を採用しました。

### 仮想デスクトップ環境を「エージェントレス」で守れる点を評価

「仮想デスクトップを社内外で柔軟に活用できる環境を実現するためには、セキュリティ面もしっかり担保することが欠かせません。そこで、今回基盤となる製品の選定に際しても、仮想化環境における高度なセキュリティ対策が施せることを、第一に重視しました」と同社の大塚 正之氏は説明します。

そうした要件を満たしたのが、VMware Viewでした。VMware Viewは、仮想デスクトップのウイルス対策機能をオフロードする「VMware vShield Endpoint」と、トレンドマイクロ社の「Trend Micro Deep Security」を組み合わせることで、エージェントレスでのセキュリティ対策が可能。これにより、アンチウイルスおよびアンチマルウェア機能をオフロードできるため、多数の仮想デスクトップで一斉にウイルススキャンが開始された場合も、システムが過負荷になることを回避できます。「従来型のアンチウイルスとは異なり、ユーザーの使用感にほぼ影響を与えず、高度なセキュリティを維持できると考えました」と鈴木氏は言います。

一方、同社はVMware View自体が備える機



ソフトバンク・テクノロジー株式会社  
執行役員  
クラウドソリューション事業部  
プラットフォーム技術統括部  
統括部長  
鈴木 重雄 氏

「業務環境を、部門・部署ごとにテンプレート化した仮想デスクトップで提供することで、セキュリティポリシーの統一、作業環境の統一による業務効率化なども図れています」

ソフトバンク・テクノロジー株式会社  
鈴木 重雄 氏



ソフトバンク・テクノロジー株式会社  
クラウドソリューション事業部  
プラットフォーム技術統括部  
ITインフラ技術部  
第1技術グループ  
VMware認定プロフェッショナル  
(VCP)  
大塚 正之 氏



ソフトバンク・テクノロジー株式会社  
クラウドソリューション事業部  
プロジェクト推進統括部  
セキュリティ担当コンサルタント  
兼 情報セキュリティ監査責任者  
CISSP, TCSE  
小林 青己 氏

カスタマープロフィール

ソフトバンクグループの一社として、ICT 関連事業を展開。「Eコマースなどのオンラインビジネスの支援」および「クラウド関連ソリューションの提供」の2軸を基盤とし、コンサルティングサービス、システム構築から運用保守サービスまでのさまざまな事業を展開している。

能にも注目しました。同製品は、ディスプレイの画面転送プロトコルに「PCoIP」を採用。画面上の変化があった箇所のデータだけを圧縮・転送するこの方式により、狭いネットワーク帯域下でも、ストレスなく画面を表示することが可能です。「実際に、帯域が広くないネットワーク環境下で仮想デスクトップ環境を利用し、動画を再生するテストも行いましたが、問題なく閲覧することができました」(大塚氏)。また、端末側のスペックも要求されないため、モバイルPCなどでの利用に適している点も魅力だったといえます。

「高度なセキュリティ対策が可能な仕組みと、仮想デスクトップ基盤としての性能。この両方を兼ね備えた“最適解”が、VMware View だったのです。また、これまで当社がVMware vSphereによる仮想化を多数行ってきた経験を持ち、VMware 製品に大きな信頼を寄せていたことも採用を後押ししました」と同社の小林 青己氏は話します。

仮想デスクトップ環境を一元管理し  
管理作業の工数を75%削減

VMware View を基盤とする同社の仮想デスクトップ環境は、2012年8月から稼働を開始しています。現在は顧客システムの運用管理部門用200台、営業部門用100台の合計300台分の仮想デスクトップ環境を構築。各部門数名ずつの先行ユーザーからスタートし、徐々に利用者数を拡大している段階です。

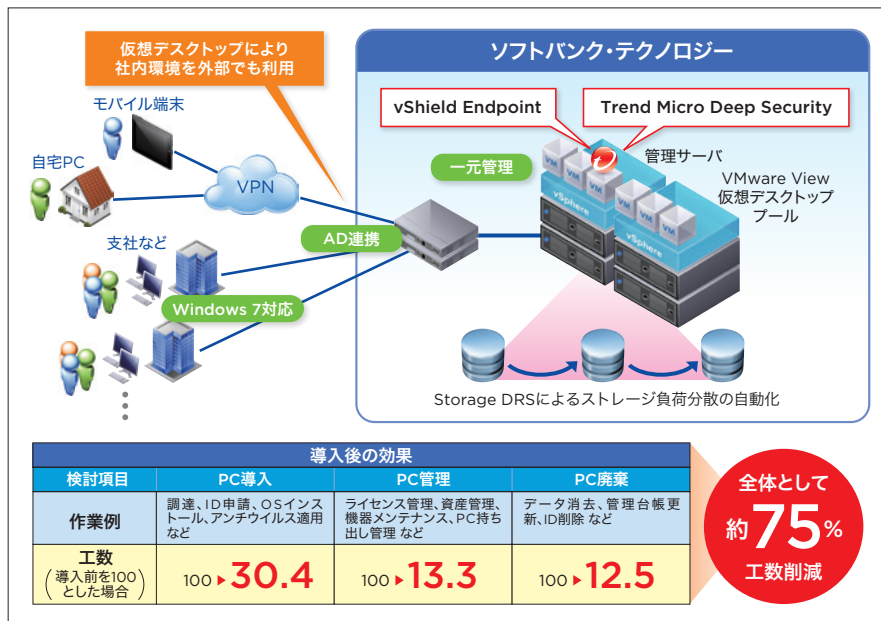
今回の導入により、同社の運用管理担当者は、社外にいても社内と同様の環境下で業務が行

えるようになりました。「使用感も社内環境とほぼ変わりません。これにより、運用管理側の状況によらず、常に同質のサービスをお客様に提供できる環境が整いました。昨今、重要度が高まるBCPの一環として、仮想デスクトップ環境の導入は非常に効果的だと考えています」と鈴木氏は話します。

またVMware View は、端末の管理作業の工数削減にも大きな効果をもたらしました。従来、同社は社員に支給したPCのセットアップ、セキュリティ対策の適用などを各社員が個別に行っていました。しかし、今回の導入により一元管理が可能になり、セットアップなどの作業を管理者側で一括して行える環境を整備。「PCを仮想化により集約したことで、物理的なハードウェアの台数を削減。セットアップにまつわる社員の作業工数も75%程度削減でき、その分のコストと時間を本業に充てることができています」(小林氏)。さらに、仮想デスクトップ環境を、部門・部署ごとにテンプレート化して提供することで、セキュリティポリシーの統一も図れました。

加えて、外出の多い営業担当者がいつでも社内のデスクトップ環境にアクセスできるようになったことで、生産性が向上。メール確認などの利便性が上がったほか、日報作成のために社へ戻る必要もなくなり、交通費削減などの効果も目に見えて表れているそうです。

同社では今後、さらなる生産性向上、システム運用管理負荷の軽減などを狙い、仮想デスクトップ環境の利用範囲を全社・各部門へと展開していく予定です。



図：ソフトバンク・テクノロジーの仮想デスクトップ利用イメージ、および導入効果

